

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第3回高松市創造都市推進懇談会
開催日時	平成25年4月9日(火) 18時30分～20時30分
開催場所	四番丁スクエア 会議室
議 題	(1) 異業種交流空間交流事業について (2) 「創造都市推進ビジョン」主なプロジェクトについて
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	人見会長，辻委員，中筋委員，中田委員，英委員， 広野委員，真鍋委員，鎌田委員，長田委員，香西委員， 西成委員，星島委員，山家委員
傍 聴 者	0 人 (定員 5 人)
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 8 3 9 - 2 4 1 1

審議経過および審議結果

(1) 前回欠席委員の挨拶

人事異動に伴う課長，担当職員の挨拶
議事進行について。
事務局とアルパックの中の U-40 がメンバーに入る。

(2) 異業種交流空間交流事業について

資料について事務局から説明

(会 長)

私の考える創造都市の目的は地域振興である。その先に交流人口の増加があり，産業の創出がある。

共通認識をもつために，創造都市とは何なのか，それぞれが考える創造都市についてメンバーの意見を聞きたい。

(委員)

U-40 世代の市民がいかに行政の仕事やまちづくりにからんでいくか。

仕事でからんでいくのはなかなか難しい。どんな仕組みがあれば若年世代が関わっていけるかを考えたい。

(委員)

高松市は豊富な資源，人材，産業も多くあるけど，横のつながりに乏しいと感じる。横のつながりを促進してあたらしいものを生み出していくのが創造都市なのでは。

(会長)

第4回審議会の中で，「分野ごとに計画を作る時代は終わっている」との発言もある。

審議経過および審議結果

(委員)

市民みなさんが参加しないと意味がないもの。この間芸術祭で、地元のおじいちゃんがウォーキングを兼ねて参加していたのが創造的だと思った。

外部から来たメンバーは感じているが、いつも決まったメンバーがいつも決まったことをして、いつも決まった結果を出している。それを成功だというならもっと成功するようにしていけないといけない。

我々U-40と新たな人が関わっていったら楽しいのでは。例えばU-40の会議そのものもまちテレなどで発信してみても。一般の方がみてどう思うかも参考になるのでは。

「創造都市」の答えはわからないけど、わかりやすく市民に伝えるのが我々の仕事ではないか。難しい言葉は使わずに、一般の方を遠ざけないように気をつけなければならない。

(委員)

創造都市から産業の創出までつなげるとどんどんビジネスっぽくなってしまう。そこのジレンマ。行政との関係の中で新しいものが生まれれば。

(委員)

市民ひとりひとりが意識を持つことが大切だと思う。参加型にすることが創造都市につながる。自分のなかでも創造都市について明確なビジョンが持っていない。答えを探しながらやっていくこと。

(委員)

生活スタイルに結びついてないと意味がない。いまある文化をリノベ・リデザインしながら何かを生み出していくイメージ。既存団体や伝統も大切にしつつ、若者が入っていけるようにコーディネートするのが我々の役目では。

(委員)

創造都市ってなんだろうって考える機会を設けることが大切。言葉がひとり歩きしないように。

瀬戸芸やさぬき映画祭でクリエイティブな方がどんどん来ているのに、なかなか交流できる場所がないのがもったいない。

(委員)

単発のイベントで人を呼ぶよりも外国人や県外の方が一定期間でも滞在してくれる滞在しやすい町になればいい。創作しやすいまちにできれば。

芸術士の派遣事業をしているが、アートの線引きをしないことが大事。これは創造でこれは創造でないとかの線引きはしたくないし、そのこと自体創造的ではない。創造っていうのはひとそれぞれなので、共用できるような懐の深さも必要。

(会長)

いまの発言に対して、第4回審議会の発言の中で「価値判断の軸となるようなもの」というワードがあるが、線引きするという意味のラインではなく、そのラインを目指してそれぞれが高めあえるような空

気感や、土壌作りが必要ではないか。

(委員)

地域コミュニティでやっている活動の大きい版かなというイメージ。歌舞伎の例で言うと、人が集まって連携して、ひとつのお祭りをする。県内外からお客が集まり、まちも潤う。これを文化、産業、スポーツにおきかえて魅力あるまちになることで、高松が発展していくのでは。

(委員)

ひとつで言えば、心の豊かさを目指す、そして最終的には価値観の変化を目指すということかなと思う。

例 1

金沢市への視察での話。いまの日本はご飯を食べて寝ただけで幸せというステージは過ぎている。それ以外のさまざまな文化活動などを通して幸福感を感じているのでは。

例 2

収入はかなりあるけどあまり幸せそうにみえない友人。人間性の回復、こころの豊かさを享受できるような都市になれば。

こころの豊かさについて、なにがその人にひっかかるかはそれぞれなので、都市として幸福感を感じるチャンネルを多く用意することが大切。

交流や活動によって経済が生まれる。それぞれが活性化することで経済活動が生まれ、好循環が生まれる。

連携や交流も大事な手法である。各々が考えるだけでなく、内外の交流によって刺激となって、新たなものが生まれる。またそれに伴い、創造的人材が集まりやすくなる。

(委員)

自分はものづくりをやっているが、現状で足りないものは人材交流だ。人材交流による化学反応、地域資源の活用もできていない。ひと・もの・こと作りを進めて、ライフスタイルの提案をしていきたい。

(委員)

どういうものが創造都市なのかを考えること自体がナンセンスでは。あとからラベリングした言葉であって、創造都市だといわれている都市も、創造都市を掲げてやった結果ではないと思う。

高松市を大きな家と見立て、住んでいる人を家族と見立てるとお金じゃなくて楽しいことができるかも。

アート・料理・音楽などクリエイティブといわれているものは、言語を介さずにできるコミュニケーションの媒体でもある。これをうまく使ってなにかできれば。

(委員)

何かを生み出すのは大変なこと。クリエイターを呼び込みたいならもう少し危機感をもつべき。建築家の安藤さんの言葉。「香川では生活はできるけど、人が生きていく上で必要な文化がない。」

単発ではいけない。ここでやっていこうと思わせるような土壌作りが必要。高松にはこういうおもしろい仕組みがあるというものが必要。

(委員)

そこに住んでいる人が生き活きと暮らしていくということ。ワクワク感があるまち。お金稼ぎ以外の活動にも力を費やせる小さな暮らしができる土壌であることが高松の魅力のひとつかなと思う。

(会長)

異業種交流空間創出事業の要綱についてご意見は？生みの親の英委員からなにかあれば。

(委員)

もともとの発想は丸亀町商店街のやっている「盆栽カフェ」からきている。Bonsai×Somethingというスタンスでコラボしていく。

運営管理団体を設けて、ただの喫茶店にならないようにしないと。

(事務局)

ルール作りをするにあたって、行政だけで考えてはつまらないものになっちゃうかも。外の人がみたときに、目的もわかっていいものが集まるようなルール作りをしたい。

(委員)

誰が交流するためのもの？高尚なもの？しゃべってもいい空間？

(委員)

県外の人が主体になってもいい？

(事務局)

市内要件を設けるかはいま悩んでいるところ

(委員)

高松市を中心に活動している人という言い方にしては？

(委員)

チームラボがプロデュースしたメイドカフェ。ここがプロデュースしたというだけで人が集まる。誰か著名人を呼ぶのは？

(委員)

もし外の人を呼ぶなら、ピンポイントで呼ばないと来てもらえない。このままだと、U-40メンバーならどこかでみたことのある人がやっておしまいになるのでは。我々U-40も出会ったことのない人と出会いたい。

(委員)

1ヶ月ずつの2団体では簡易で安っぽいものしかできないのでは？飲食店のコンサルタント経験もあるが、1ヶ月では飲食店を軌道には乗せられない。

誰に交流してほしいのか明確に決めないといけないのでは？

(委員)

市美術館の改修については？金沢では、21世紀美術館ができて、具体的な活動拠点となったことが大きい。高松版の21世紀美術館がで

できれば。文化がないという意見を肝に銘じないといけない。ただ、市美術館改修がこの時期にあるのはとても幸運なこと。

(局長)

美術館改修については、予算上の制約もあるので、がらりと変えるのは難しい。

(委員)

たとえば入り口をガラス張りにして外にあふれるような空間にするなどいろんな意見がある。我々の意見も反映してもらえれば。この改修は創造都市を考える上で重要な問題である。

(局長)

みなさんの考えを仕組みのなかに組み込んでいくことは可能。

(参事)

今回の美術館カフェは最終的に市民の理解を得るための実験。どういうコンセプトならうまくいくか。大きな成功のためのスモールサクセスを作るのが目標。

(委員)

誰のためのカフェなのか？

著名人と気さくにお茶が飲めるカフェなのか？職人さんとのふれあいなど県産品でせめるカフェなのか？

(委員)

今回のカフェが、高松市の意気込みや「創造都市」という言葉を露出していく1発目なのは。何のためのカフェなのかが大事。

(会長)

誰のためのカフェか。「創造的人材と市民が触れ合える機会の創出」や「競争力のある地域資源の情報発信ができる場」などいろいろあるが。

(委員)

誰に見てもらって、何を感じてもらいたいのか？

高松市内に有名なアーティストがそんなにたくさんいるわけじゃない。クリエイティブな人との交流なら、地域的な制限はないほうがいいのでは。地域資源の制限もいらぬのでは。

(委員)

県外から人を呼ぶなら、寝泊りなどのサポートが必要。

(委員)

今回のカフェのように、場所代をとらずに委託料まで払って事業をする、こんなフレキシブルに対応する高松市というのも創造的なのかなと思う。

(委員)

高松の文化レベルをあげるには、こんな人がここでこんなことをしているよとアピールできるようなイベントが必要。広告宣伝費にもなる。

(会長)

委託された団体と U-40 との関わりサポートを通してプラットフォーム作りにつなげられるかも。

(委員)

いろいろな人に集まってもらうということに注目するなら、カフェの実施団体より、その仕組みを作る人にマネジメントしてもらう。

(委員)

芸術士さんがいて教えてくれる場所にしても楽しそう。芸術士さんに会える機会にしてもいい。

(3) 「創造都市推進ビジョン」主なプロジェクトについて

(会見)

創造都市におけるスポーツの立ち位置・イメージについて。
いまアートよりになっているものをニュートラルに戻すイメージ。

(事務局)

骨子案の説明

(委員)

高松トライアスロンの活動は創造的。やり方、市民の巻き込み方、見せ方もカッコいい。看板やちらしも。外国の方との交流もできている。

(委員)

今回、創造都市のなかにスポーツを文化としてみる視点をもっている高松市ってすごいと感じた。日本は昔から運動と文化を分けてしまっている。スポーツは教育的側面が強い。少年団では少子化でチームが組めない。小中高大で入学卒業を繰り返すので、年を重ねるごとにスポーツを続ける人が減っていく。

続けていくこと、無理なく日常に組み込んでいけることが大切。体育の側面が強くて、純粹にスポーツを楽しめない環境だし、楽しいことは悪いことみたいな風潮があって、スポーツを楽しむことに抵抗がある。

いま各団体がスポーツの価値を高めようがんばっている。スポーツツーリズムが盛んになってきている。スポーツ+α（例：観光、食育、世代間交流、介護、リハビリなど）。

体育からスポーツへ、若い人が変えようがんばっている。

(会長)

認識を新たにした。

(委員)

楽しんでやるスポーツと激しいスポーツの間をつなぐものがないのも課題になっている。どうコーディネートしていくかが課題。

(会長)

たとえば異業種交流空間創出というテーマだと、スポーツはどういうアプローチができるか？

(委員)

手近な例でいうと、香南町の地域にある神社を学芸員さんが紹介してまわって、その後空港公園までウォーキングしてニュースポーツ(キンボール、フライングディスクなど)を楽しんで、地域の名所を紹介しながら帰って、メンバーさんがボランティアで打ち込みうどんを用意してくれていて、みんなで食べるイベントがあった。ウォーキングを絡めると結構なんでもできそう。

(委員)

僕もスポーツは文化だと思っている。サッカーとJリーグの関係。20年前と今を比較すれば一目瞭然。

見る文化+やる文化(こどもたちのスポーツクラブから裾野を広げる)

地方都市でスポーツチームがこんなにたくさんあるのは珍しいこと。

カフェとのからみでは、写真や映像を流したり、選手との交流、チーム再建話などができるかな。

(委員)

スポーツ関係者はスポーツ関係者だけがかたまりがち。自分はここで異業種の方たちと出会えたことで、自分の殻をやぶっていきたい。

世代間交流でいうと、「総合型地域スポーツクラブ」に関わっている。多世代交流は当たりまえにしていこうというもの。こどもとおばあちゃんが一緒のコートに入ってスポーツをするようなもの。スポーツコンパもありかな。

(会長)

アートが上手い下手の価値軸がなくなってきているように、スポーツも上手い下手の価値軸がなくなればいいな。

(委員)

高知であった高知の「おきやく」というイベント。テレビのSASUKE(サスケ)の小さい版みたいなイベントをやっていた。子どもたちがとっても楽しんでいたので、競わすことも大事かな。

(会長)

そろそろ時間になりましたが、カフェの案についてなにかあれば。

(委員)

テーマ別の婚活カフェも楽しそう

(会長)

今後のスケジュールについて

(事務局)

スケジュールについて説明。次回は5月21日(火)~24日(金)で日程調整メールする。

以上